

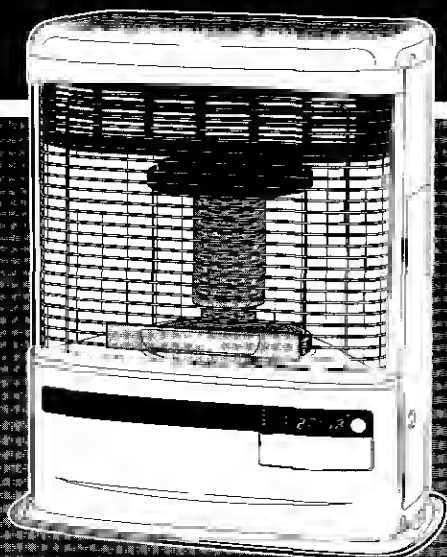
CORONA

コロナ密閉式石油ストーブ

取扱説明書

正しく使ってじょうずに節約

エフエフ ファイファイ ビーエフ
FF-VY55PF



もくじ

ページ

- | | | |
|-----------|---|-------|
| 1 | 特に注意していただきたいこと、
(安全のために必ずお守りください)... | 1～2 |
| 2 | 使用する場所..... | 2 |
| 3 | 各部の名称..... | 3～4 |
| 4 | 使用前の準備..... | 4 |
| 5 | 使用方法(使い方)..... | 5～8 |
| 6 | 安全装置..... | 8 |
| 7 | その他の装置..... | 9 |
| 8 | 日常の点検・手入れ..... | 9～11 |
| 9 | 定期点検..... | 11 |
| 10 | 故障・異常の見分け方と処置方法... | 11～12 |
| 11 | 部品交換のしかた..... | 12 |
| 12 | 保管(長期間使用しない場合)..... | 12 |
| 13 | 仕様..... | 13 |
| 14 | アフターサービス..... | 13 |
| 15 | 据え付け・移設..... | 14 |

なお、お配りになった後もお使いになる
方がいつでも見られる所に「保証書」・
「工事説明書」と共に大切に保管してくだ
さい。

警告



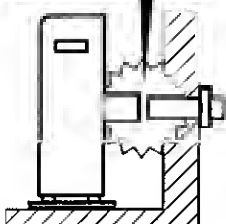
KEROSENE ONLY

ガソリン使用禁止
使用燃料：灯油

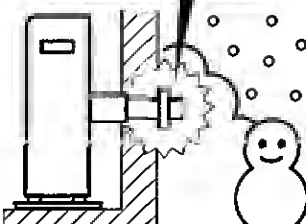
警告

給排気筒を必ず
点検してください

外れ危険



閉そく危険



株式会社 **コロナ**

1 特に注意していただきたいこと (安全のために必ずお守りください)

この取扱説明書および製品への表示では、製品を安全に正しくお使いいただき、あなたや他の人々への危害や財産への損害を未然に防止するために、いろいろな絵表示をしています。その表示と意味は次のようになっています。内容をよく理解してから本文をお読みください。



警告



注意



警告 (WARNING)

ガソリン厳禁

ガソリンなど揮発性の高い油は、絶対に使用しないでください。
火災の原因になります。



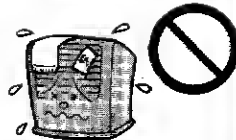
衣類の乾燥厳禁

衣類などの乾燥には使用しないでください。
衣類が落下して火がつき、火災の原因になります。



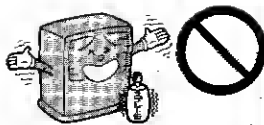
温風吹出口をふさがない

衣類、紙などで温風吹出口や空気取入口をふさがないでください。
衣類、紙などでふさぐと、火災の原因になります。



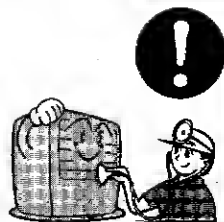
スプレー缶厳禁

スプレー缶やカセットこんろ用ボンベなどを、温風のあたるところに放置しないでください。
熱で缶の圧力が上がり、爆発して危険です。



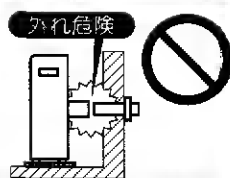
定期点検の実施

定期的（2年に1回程度）に点検・整備を受けてください。
点検を受けずに長期間使用し続けると、故障や事故の原因になり危険です。点検・整備はお買い求めの販売店や資格者のいる店に依頼してください。



給排気筒外れ危険

給排気筒（管、ホース）が外れたまま使用しないでください。
外れていると運転中に排ガスが室内にもれて、危険です。



給排気筒トップ閉そく危険

給排気筒トップの周りが雪でふさがれたまま使用しないでください。ふさがれているときは、除雪してください。
また、板などによる「雪囲い」は給排気の妨げになるのでおやめください。
閉そくしていると運転中に排ガスが室内にもれて、危険です。



給排気筒トップには金網などは付けない

給排気筒トップには、虫よけのための金網などは付けないでください。
給排気の妨げになり、異常燃焼を起こし排ガスが室内に漏れる可能性があります。危険です。



ご自身での据え付け・移設工事の厳禁

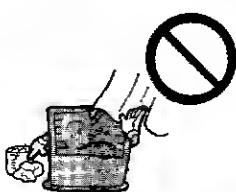
お客さまご自身による工事は危険です。
据え付け工事は販売店や専門業者にご依頼ください。
（ストーブを移設させる場合も同じです。）



注意 (CAUTION)

カーテン・可燃物近接禁止

カーテンや燃えやすいものを近づけないでください。
火災が発生するおそれがあります。
可燃物との離隔距離については標準据え付け例（14ページ）を参照してください。



異常時使用禁止

万一異常を感じたときは、使用しないでください。
異常燃焼のおそれがあります。



給油時消火

給油は、必ず消火してからおこなってください。
火災のおそれがあります。



高温部接触禁止

燃焼中や消火直後は、温風吹出口や給排気筒、給排気筒トップなど高温部に手などふれないでください。
やけどのおそれがあります。



温風に直接あたらない

温風に直接長時間あたらないでください。
低温やけどや脱水症状になるおそれがあります。



分解修理の禁止

故障、破損したら、使用しないでください。
不完全な修理は、危険です。



腰をかけたり、物をのせないで

機器の上にのったり、腰をかけたりしないでください。
機器の故障ややけどのおそれがあります。
機器の上に花びんや水を入れたものなどを置かないでください。
水がかかると漏電や故障のおそれがあります。



改造使用の禁止

改造して使用しないでください。また、ストーブや給排気筒には床暖房用の熱交換器などを取り付けしないでください。火災や排ガスが室内にもれる原因となり危険です。



電源コードを傷めない

電源コードに無理な力を加えたり、物をのせたりしないでください。また、電源プラグを抜くときは、コードを持って引き抜かないでください。
火災や感電の原因になります。



電源プラグは確実に差しこむ

電源プラグはコンセントに根元まで確実に差しこんでください。また、傷んだプラグやゆるんだコンセントは使用しないでください。
火災の原因になります。
ぬれた手で抜き差しはしないでください。
感電の原因になります。



長期間使用しないときは電源プラグを抜く

長期間使用しないときはまたは保管するときは、必ず電源プラグをコンセントから抜いてください。
火災や予想しない事故の原因になります。



指や棒を入れないで

温風吹出口や空気取入口などに指や異物を入れないでください。ケガや火災の原因になります。



やかんのせ禁止

やかんなどをのせないでください。
振動や接触によってやかんの熱湯がこぼれ、やけどのおそれがあります。



電源プラグのお手入れをする

ときどきは電源プラグを抜き、ほこり及び金属物を除去してください。
ほこりがたまると湿気などで絶縁不良になり火災の原因になります。



灯油の保管

灯油は、火気、雨水、ごみ、高温および直射日光を避けた場所に保管してください。
ガソリンなどといっしょに保管しないでください。
誤って使用すると異常燃焼や火災のおそれがあります。



変質灯油禁止

変質灯油、不純灯油（汚れた灯油、水の混じっている灯油など）を使用しないでください。
異常燃焼や故障のおそれがあります。



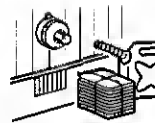
初めてお使いになるときの注意

初めてお使いになるときは耐熱塗料などが焼き付くまで煙と臭いが出ます。しばらくの間、窓をあけて部屋の換気をおこなってください。
また、小鳥や小動物などに影響する場合がありますので、この間は部屋に入れないでください。



給排気筒付近の可燃物近接禁止

給排気筒トップの近くに、灯油や可燃物など引火のおそれのあるものを置かないでください。
火災のおそれがあります。



油漏れ確認

油タンク・ゴム製送油管・接合部および機器などからの灯油漏れがないことを確認の上ご使用ください。
灯油が漏れていると火災のおそれがあります。

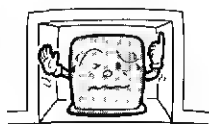


2 使用する場所

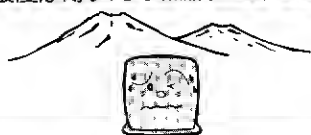
ストーブを安全に使用するためには、場所の選定が大切です。

安全に使用するために

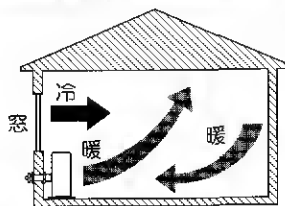
- マントルピースなどには据え付けしないでください。



- 標高が1000mを超える高地では使用しないでください。
（空気の濃度が薄いため、燃焼に必要な空気が不足します。）



効果的に使用するために



- 冷気の入ってくる方向、例えば窓側などに置くと、冷気がストーブで暖められて対流しますので、効果的です。

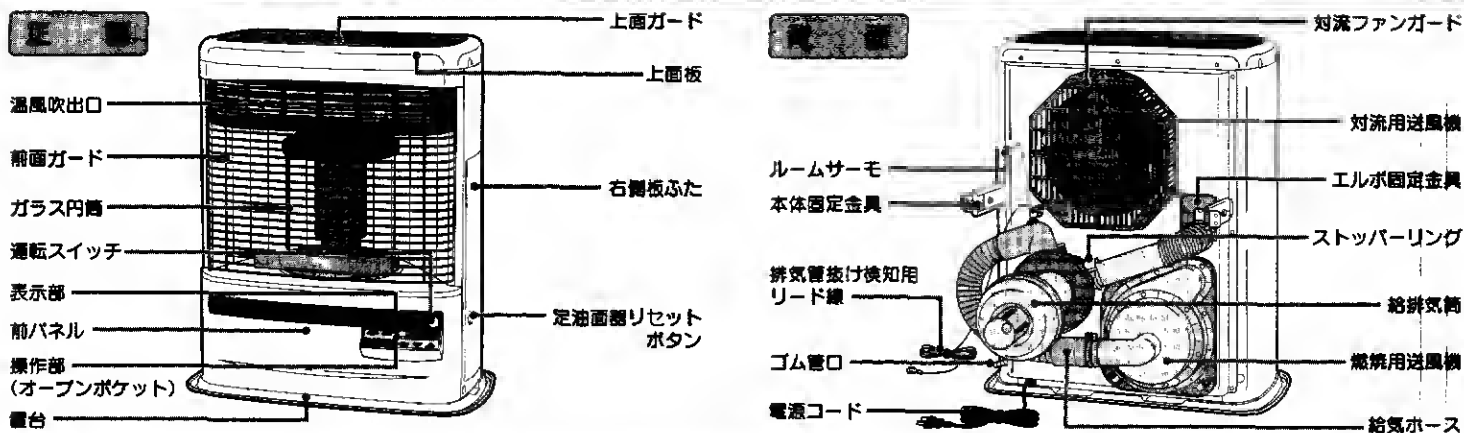
出入口など人の通るところは、ぶつくと危険ですので避けてください。

- 部屋の保温を工夫し、部屋の温度の調節を心がけましょう。

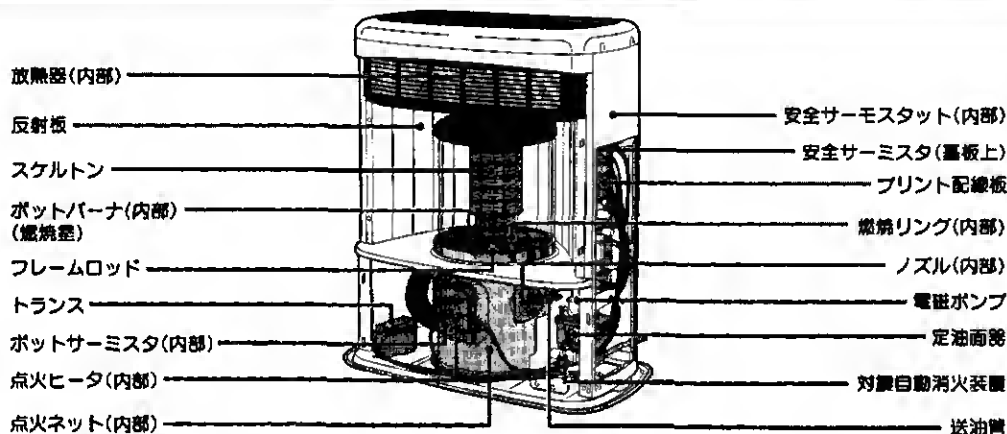
ストーブの前面に障害物があると、部屋の温度にむらができるばかりでなく、強く放射熱によってストーブ本体の温度が上昇して危険です。
使用場所には十分注意して効果的に使用してください。

3 各部の名称

外観図



構造図



表示部の名称と働き

タイマーランプ

- タイマー運転中は点灯 (緑) します。

セーブランプ

- セーブ運転中は点灯 (緑) し、解除すると消灯 します。
- 室温設定を10℃ (F点設定) にすると自動的に セーブ運転になり点灯 します。

運転 スイッチ/運転ランプ


- 点火・消火するときに押します。 押す (■) と運転ランプ (赤) が点灯 し、 点火動作に入ります。 もう一度押す (■) と運転ランプが消灯 し消火 します。

<p>設定温度 室内温度</p> <p>午前 午後 24 18</p>	<p>● 温度表示</p> <p>左側：設定温度表示 (10℃、15℃～29℃)</p> <p>右側：室内温度表示 (0℃～46℃)</p> <p>● 手動火力調節時は設定温度表示部消灯</p>	<p>設定温度 室内温度</p> <p>午前 午後 -- [L]</p>	<p>● -- [L] 表示</p> <p>初めて電源プラグをコンセントに差しこんだ 場合や停電後再通電されたとき。</p>
<p>設定温度 室内温度</p> <p>午前 午後 8:30</p>	<p>● 現在時刻、時刻合せ表示</p> <p>時計合せランプ消灯：現在時刻</p> <p>時計合せランプ点灯：時刻合せ (例) 午前8時30分に時刻をセット</p>	<p>設定温度 室内温度</p> <p>午前 午後 -- : --</p>	<p>● --- 表示</p> <p>時計合わせをしていないときに表示されます。</p>
<p>設定温度 室内温度</p> <p>午前 午後 6:30</p>	<p>● タイマー時刻、タイマー合せ表示</p> <p>タイマーランプ点灯：タイマー時刻</p> <p>タイマー合せランプ点灯：タイマー合せ (例) 午前6時30分にタイマー時刻をセット</p>	<p>設定温度 室内温度</p> <p>午前 午後 [L]</p>	<p>● [L] 表示：チャイルドロックのセット表示</p> <p>運転ボタンを押しても点火しません。 ([L] 表示点滅)</p>
<p>設定温度 室内温度</p> <p>午前 午後 E3</p>	<p>● 記号表示 (モニターサイン)</p> <p>(例) E3 表示：対震自動消火装置の作動</p>	<p>設定温度 室内温度</p> <p>午前 午後</p>	<p>● 表示なし</p> <p>電源プラグがコンセントに差しこまれてない。 安全サーモスタットの作動直後。</p>

4 使用前の準備

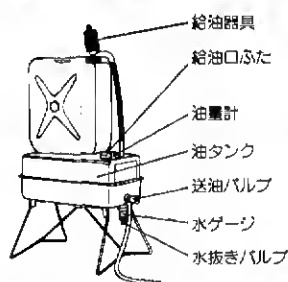


- **⚠ 警告** ガソリンなど揮発性の高い油は、火災の原因になりますので絶対に使用しないでください。
- **⚠ 注意** 変質灯油、汚れた灯油、水の混じっている灯油などは、絶対に使用しないでください。
- **⚠ 注意** 灯油は、必ず火気、雨水、ごみ、高温及び直射日光を避けた場所に保管してください。



給油

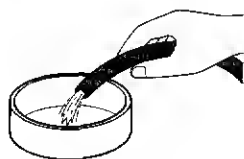
■給油の際の手順と注意



- 送油バルブを閉じて給油口ふたをはずし市販の給油器具で灯油を給油してください。
油量計の針が「満」をさしたら給油をやめてください。
- 給油口ふたを必ずもとどおりに締めてください。
- 給油の際に、水、ごみなどを入れないよう特に注意してください。

- 給油口ふたは、確実に締めてください。
- こぼれた灯油はよくふきとってください。
- 燃料切れの注意と空気抜きの方法

- 油タンクをいったん空にしますと、送油経路内に空気がたまり、正常に送油ができなくなることがあります。このような場合には次の順序で空気抜きをしてください。



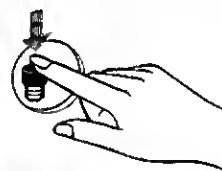
(油がこぼれないように容器を用意してください。)

点火前の準備と確認

■安全装置のセット、取扱上の注意

定油面器のセット

- 初めて使用するときは、シーズン初めには、ストーブ右側面の丸穴の中に指を入れ、定油面器リセットボタン(赤色)を軽く押し下げてください。



- リセットボタンは据え付け時や、シーズン初めに操作します。
定油面器に強い衝撃を与えたり異常があったとき以外は、特に
操作する必要はありません。
万一点火操作後4～5分しても着火しなかったり、着火後2～
3分で消火してしまう場合は、リセットボタンを押してください。
安全弁がはずれ、灯油がスムーズに流れます。
長時間押し続けると定油面器より油があふれますので注意
してください。

■送油経路の油もれの確認

- 油タンクや送油管の接合部などから油もれがないかどうか確認してください。

■電気配線の確認

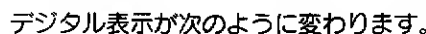
- **⚠ 注意** 電源プラグをコンセントに刃の根元まで確実に差しこんでください。
- 電源コードが給排気筒などの高温部にふれるおそれのないことを確認してください。

ご注意 電源プラグ・コードの発熱・発火・電圧降下を防ぐために

- 電源は必ず適正配線された単相100Vのコンセントを使用してください。
- 電源コードは、途中で接続したり延長コードの使用、他の電気器具とのタコ足配線をしないでください。

【一】の解除

オープンポケット内の **チャイルドロック** ボタンを3秒以内に3回
押してください。



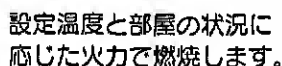
デジタル表示

デジタル表示

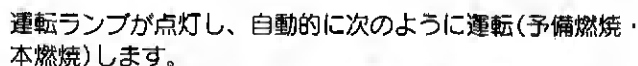
点火操作をおこなってください。

オープンポケット内の**火力調節**つまみで「自動運転」と「手動運転」が設定できます。ご希望の運転方法でご使用ください。

火力調節 つまみを「自動」に合わせてください。



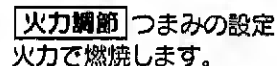
運転 スイッチを押して「入」にしてください。



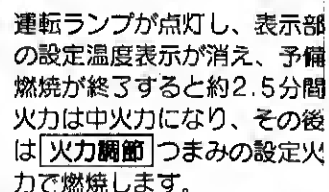
〔火力調節「手動」(微小～大)の場合は設定温度の表示はありません。〕



オープンポケット内の **火力調節** つまみを「微少」と「大」の間のご希望の位置に合わせてください。



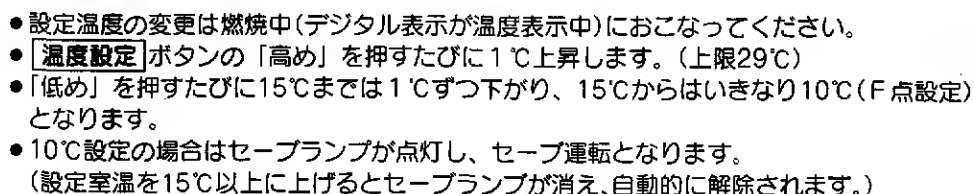
運転 スイッチを押して「入」にしてください。



- 運転スイッチを「ON」にしたとき、運転ランプが点灯せずに
ブザー音が鳴るときは、タイマーが故障となり、
すので、**タイマーセッ** ボタンを押してタイマー運転を解除
してください。
- 運転中に**運転** スイッチを押して「消火」にして、1分秒以上
経過すると、運転ランプが点滅し、ブザー音が鳴ります。これは、
故障によるものです。

オープンポケット内の**火力調節**つまみを「自動」に合わせると、ルームサーモによる自動運転となり、設定温度に自動調節されます。

表示部に設定温度(24℃)が表示されますので設定温度を変える場合は次のように調節してください。



■セーブ運転

- 火力調節「自動」運転時に、微少火力でも室温が設定温度より上昇する場合、設定温度より約3℃上昇すると自動的に消火し、設定温度まで下がると点火動作に入ります。これをくり返すことによりむだな部屋のあたため過ぎを防ぎます。

温度設定 ボタンにより希望の室温設定後、**セーブ運転** ボタンを押してください。

セーブ運転
入/切

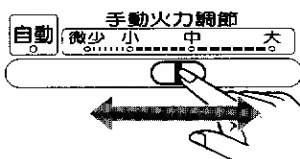
セーブランプが点灯し、セーブ運転となります。

セーブ運転 ボタンを再度押すことによりセーブランプが消え、セーブ運転解除となります。

火力調節（手動調節－手動運転）

温度設定 による自動運転の他に、**火力調節** つまみによる手動火力調節が可能です。次のようにしてください。

オープンポケット内の**火力調節** つまみを「微少」から「大」の間のご希望の位置に合わせてください。



表示部の設定温度表示が消えて**火力調節** つまみの設定火力で燃焼します。

■炎の状態

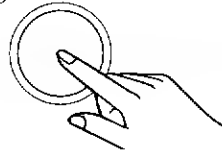
- 炎の状態は青い炎の中に、いくらかの黄色い炎(赤火)がまじっても異常ではありません。
- ストーブの据え付けや給排気筒の設置条件で炎は多少変化します。

消 火

消火順序

運転 スイッチを押して「切」にしてください。

○ 運転 入/切



- 運転ランプは消灯しますが、燃焼室が冷却するまで燃焼用・対流用送風機は、運転を続けます。
- 燃焼室が冷却すると燃焼用・対流用送風機が自動的に停止し、同時にデジタル表示が温度表示から現在時刻表示に切りかわります。

- 注意** 2日以上家をあけるなど長時間使用しない場合は、運転が完全に停止してから電源プラグをコンセントから抜いてください。
- 外出のときは、必ず運転を停止(消火)してください。
- 運転停止後、燃焼用送風機が停止するまでは電源プラグを抜かないでください。もし抜きますと、ガラス内筒がくもったり、ストーブの表面温度が上昇します。

消火後、再点火するときの注意

- 燃焼中に**運転** スイッチを押して「切」にすると、再点火安全装置の働きで、ストーブが冷却されるまでの約2分間は再点火できません。
ただし瞬間的な消火操作(約1秒以内)の場合は、そのまま燃焼が継続されます。
- 停電時には、必ず**運転** スイッチを「切」にしてください。

現在時刻の調節方法

チャイルドロック
3回押し



初めて電源プラグをコンセントに差しこんだ場合や停電後再通電したとき、または安全ガードモスアップの作動で運転が停止したときは、デジタル表示が「--:--」になり時刻合わせができません。
この場合はオープンポケット内の**チャイルドロック** ボタンを3秒以内に3回押しでデジタル表示を「--:--」にしてください。

オープンポケット内の**表示切換** ボタンを1回押して(時計合せ)にしてください。

セーブ
タイマー
●時計合せ
タイマー合せ

設定温度 室内温度
午前 午後 -- : --

時計合せランプが点灯します。

切換
表示切



時計/タイマー合せ ボタンを押して、現在時刻を合わせてください。

セーブ
タイマー
●時計合せ
タイマー合せ

設定温度 室内温度
午前 午後 8:00

時 分
時計/タイマー

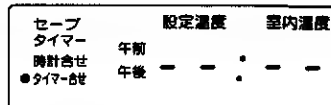


時計/タイマー合せ ボタンをはなすと時計が動き始めます。
5秒後にデジタル表示は、ストーブが停止時には現在時刻表示、運転時には温度表示にもどります。

タイマーの使用法

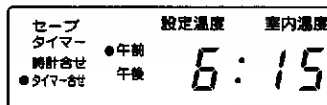
■タイマー時刻合せ

オープンポケット内の **表示切換** ボタンを2回押して(タイマー合せ)にしてください。



タイマー合せランプが点灯します。

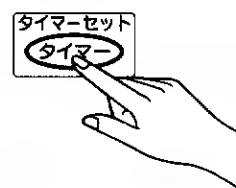
時計/タイマー合せ ボタンを押して、タイマー点火時刻を合わせてください。「分」は5分ごとに動きます。



時計/タイマー合せ ボタンをはなしてから5秒後にデジタル表示は、ストーブが停止時には現在時刻表示、運転時には温度表示にもどります。

■タイマー運転方法

オープンポケット内の **タイマーセット** ボタンを押してください。



デジタル表示にタイマー点火時刻が表示されます。

運転するときのご希望の火力に合わせてください。

運転 スイッチを押して「入」にしてください。



タイマーランプが点灯し、タイマー運転に入ります。

■タイマー運転の解除

タイマーセット ボタンを押します。

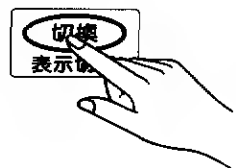


タイマー表示ランプが消灯し、時刻表示に現在時刻が表示され、タイマー運転が解除されます。

運転 スイッチを押して「切」にしてください。



■タイマー時刻・現在時刻の確認

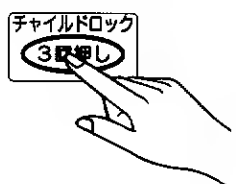


- **表示切換** ボタンを1回押すと(時計合せ)になり現在時刻を表示します。
- **表示切換** ボタンをもう1回押すと(タイマー合せ)になりタイマー時刻を表示します。

チャイルドロック

お子様などによるいたずら操作の防止や、誤って **運転** スイッチを押しても点火しないようにしたいときに使用してください。

停止中にオープンポケット内の **チャイルドロック** ボタンを3秒以内に3回押してください。



チャイルドロックがセットされ、デジタル表示が **[L]** となります。

チャイルドロックがセットされた状態で、**運転** スイッチを押しても点火しません。
(**運転** スイッチを押すと、デジタル表示が **[L]** 表示になり、運転が禁止されます。)

- チャイルドロックの解除は、再度 **チャイルドロック** ボタンを3秒以内に3回押してください。
[連続して押しつづけると、現在時刻表示と **[L]** 表示を繰り返します。]

モニターサインについて

ストーブにトラブルが発生すると、トラブル内容がデジタル表示部に記号表示(モニターサイン)されます。
この場合記号表示の内容を、ストーブ右側面に印刷されたモニターサイン一覧表、または11~12ページ「故障・異常の見分け方と処置方法」をご覧くださいのうえ、必要な処置をしてください。

〈モニターサイン一覧表〉

モニターサイン	異常状態	モニターサイン	異常状態
E1	途中消火	E0	基板温度異常
E2	不着火	P1	ポット予熱不足
E3	対震作動	P2	ポット温度低下
E5	排気管抜け検知作動	P3	ポット異常過熱
E6	ルームサーモ断線	P4	不着火 (消火時間が長い)
E8	疑似火炎	P5	基板不良
EA	燃焼用送風機異常検出		停電・安全サーモ作動
EL	ルームサーモ短絡	CL	電源プラグ差しこみ時
EE	停止時ポット異常過熱		

使用上の注意

本書の「特に注意していただきたいこと(安全のために必ずお守りください)」の他に、次の項目についても注意してください。

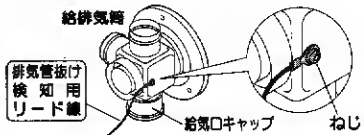
- 上面ガードは、地震などにより可燃物が落下したときなどに火災を防止するためのものです。やむをえず取りはずした場合は、必ずもとの状態に取り付けておいてください。
- クリーニング店、美容院などの化学薬品を使うところや温室、飼育室など、動植物の育成栽培に使用しないでください。
- 雷が発生したとき、雷(誘導雷)により一時的な過電圧がかかっても、過電圧防止装置が機器を保護するしくみになっていますが、大きな雷(直撃雷など)の場合は、電子部品を損傷する恐れがありますので、電源プラグをコンセントから抜いてください。

6 安全装置

このストーブには次のような安全装置がついています。
すべての安全装置は、異常が取り除かれても再度点火操作をしなければ運転は停止したままです。

安全装置	原因・作動結果	処置方法
対震自動消火装置 (E3表示)	● 強い地震や衝撃を受けたとき → ・モニターサイン E3 表示 ・自動的に消火	● ストーブの周辺に異常がないか確認し、点火操作をしてください。 (対震自動消火装置は作動後自動的にセットされます。)
点火安全装置 燃焼制御装置 (フレームロック) (E1表示 E2表示) (途中消火) (不着火)	● 点火ミスをしたとき ● 途中失火をしたとき ● 炎が異常に小さいとき → ・モニターサイン E1 表示 または E2 表示 ・自動的に消火	● 日常の点検・手入れ(9~11ページ参照)をしてから点火操作をしてください。 ● なおも異常のある場合は、お買い求めの販売店にご相談ください。
停電安全装置 (EE表示)	● 停電したとき ● 電源プラグが抜けたとき → ・自動的に消火 ・通電後モニターサイン EE 表示	● 再運転するときは「チャイルドロック」ボタンを3秒以内に3回押してデジタル表示が --- になってから再度点火操作をしてください。
過熱防止装置 安全サーモスタット 85℃ (E4表示)	● 対流ファンガードやストーブの前面がふさがったとき ● ストーブの前面に障害物などがあるとき ● 対流用送風機がロックしたとき → ・自動的に消火 ・ストーブが冷却された後モニターサイン CL 表示	● 原因を取り除き、ストーブが十分冷却してから「チャイルドロック」ボタンを3秒以内に3回押してデジタル表示が --- になってから再度点火操作をしてください。 処置をしても繰り返し作動するときは、いったん「運転」スイッチを押して「切」にし、販売店に連絡してください。

7 その他の装置

装置の名称	状況・発着結果	処置方法
再点火安全装置	●消火直後、再点火操作したとき	<ul style="list-style-type: none"> ・約2分間の冷却後でない と点火動作に入らない （●約2分経過後、自動的に点火動作を開始します。）
排気管抜け検知装置 (E5表示)	<ul style="list-style-type: none"> ●排気管の接続部がはずれたとき ●排気管抜け検知用リード線がはずれたり、断線したとき 	<ul style="list-style-type: none"> ・モニターサイン[E5]表示 ・ストーブの運転を停止 <p>●給排気筒および排気管の接続部に、はずれ・ゆるみがないか確認してください。</p> <p>●排気管抜け検知用リード線のゆるみまたは、はずれ・切れがないか確認してください。</p> 
燃焼用空気量検出装置 (E8表示)	●回転数が異常に低下したとき	<ul style="list-style-type: none"> ・モニターサイン[E8]表示 ・ストーブの運転を停止 <p>●異常低下の原因を取り除いてから点火操作をしてください。</p> <p>●なおも異常がある場合は、お買い求めの販売店にご相談ください。</p>
過電流防止装置 (表示ランプ消灯)	●内部配線のショートにより過電流が流れたとき	<ul style="list-style-type: none"> ・電流ヒューズが切れ、すべての運転を停止 <p>●お買い求めの販売店に修理を依頼してください。</p>
安全サーモスタット異常上り作動 (E9表示)	<ul style="list-style-type: none"> ●対流ファンガードやストーブの前面がふさがったとき ●ストーブの前面に障害物などがあるとき 	<ul style="list-style-type: none"> ・モニターサイン[E9]表示 ・自動的に消火 <p>●原因を取り除いてから点火操作をしてください。</p> <p>●なおも異常がある場合は、お買い求めの販売店にご相談ください。</p>

8 日常の点検・手入れ

点検、手入れのときの注意

点検・手入れは消火後、ポットバーナが冷却してから、必ず電源プラグをコンセントから抜いておこなってください。

△注意 電気部品分解や市販品との交換は絶対に行わないでください。

点検、手入れの必要項目、時期、方法

■周囲の可燃物（使用ごと）

- △注意** ストーブの周囲は、常に整理・掃除し、燃えやすいものを置かないでください。

■ほこり・汚れ（使用ごと）

- ほこりや汚れをそのままにしておきますと、油がしみたりして危険です。
- ストーブはいつも清潔にしてご使用ください。

■油もれ・油のたまり・油のにじみ（使用ごと）

- 置台・油タンクに油もれ・油のたまりや油のにじみがないか、ときどき点検してください。
- 給油の際にこぼれた灯油は、よくふきとってください。

油もれの発生場合は、布類にしみつかないようにふきとってください。

■ゴム製送油管の点検・交換の目安（シーズンの初め）

- △注意** ゴム製送油管は、屋外で使用しないでください。屋外での使用は禁止されています。

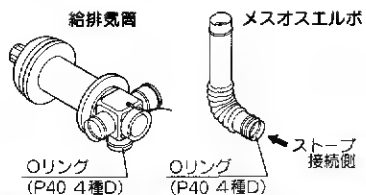
- 屋内でゴム製送油管を使用しているときは、膨潤、収縮、変質、変形、ひび割れがないか確認し、欠点のあるときは交換してください。
- 交換の目安は、3年に一度です。

■油タンク（シーズンの初め、適時）

- 油タンク内は水やこみがたまりやすいものです。給油のとき、点検してください。
- 油タンク内の水抜き及び掃除は、油タンク付属の取扱説明書に従っておこなってください。

■給排気筒の接続部のゆるみ及びトップの周囲（月に1回程度）

- 給排気筒及び、トップの周囲に障害物が置いてないか、ときどき点検してください。
- 給排気筒がつまりますと、不完全燃焼をおこします。シーズン初めには必ず点検し、くもが巣をつくったり異物が入ったりしているときは、必ず掃除してください。
- 給排気筒及び、排気管の接続部がはずれたり、排気管抜け検知用リード線がはずれたり、断線していないか点検してください。



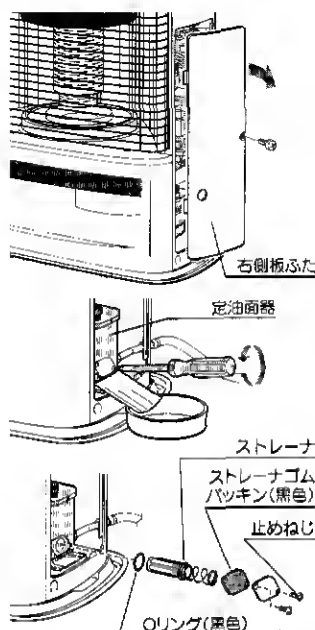
- 給排気筒を一度取りはずして、再び取り付けるとき、排気管の接続部内部にはめこんであるOリングが破損していないか確かめてください。

破損していた場合は、お買い求めの販売店に交換を依頼してください。

■定油面器のストレーナの掃除 (適時)

- 定油面器には、ごみを除くためのストレーナがついています。水やごみがたまると、灯油の流れを妨げて、十分な火力が出なくなります。

次のように掃除してください。



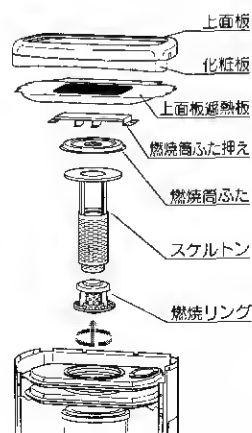
1. 油タンクの送油バルブを閉じてください。
2. ストーブの右側板ふたを止めているねじ(1本)をはずし、右側板ふたを取りはずしてください。定油面器がみえてきます。
3. ストレーナの掃除口に荷札などの厚紙を差しこんで、油ガイドを作り、その下に容器を置いてストレーナの止めねじをゆるめてはずしてください。定油面器の汚れた灯油やごみが全部流れ出ます。
4. ストレーナを取り出して、きれいな灯油の中ですすぎ洗いをしてください。(水で洗わないでください。)

組み立てるときは

- Oリングおよびストレーナゴムパッキンを忘れぬようにしてください。
- ストレーナを逆に入れしないでください。
- ストレーナの止めねじを、固く締め付けてください。
- 油もれがないか確認してください。

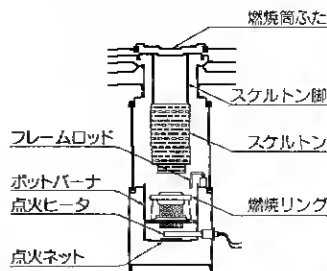
■ポットバーナの掃除 (適時)

- ご注意** 掃除は、ストーブを消火させ充分冷却してから、おこなってください。熱い状態でおこなうとやけどのおそれがあります。
- ポットバーナにすすがついて炎の形が不揃いになったときや、ポットバーナの底にすすやカスがたまりすぎて着火がおそくなったときは、次のようにしてすすを取り除いてください。



1. 前面ガードと上面ガードをはずします。
2. 上面板の左右各2本のねじと、後側3本(両端と真ん中)のねじをはずし化粧板と一しょに上に引きあげてはずします。
3. 上面板遮熱板の4本のねじをはずし、上に引きあげてはずします。
4. 燃焼筒ふた押えの2本のねじをはずし、取りはずします。
5. 燃焼筒ふたをはずしてください。
6. スケルトンをガラス円筒にあてないようにして、取りはずしてください。
7. 燃焼リングを左へ回してから、フレームロッドに当てないように注意して上へ引き上げて取りはずしてください。

8. 点火ヒータ、点火ネットをいためないように、ポットバーナ内部のすすをドライバーなどでかき落としてから、布などでふきとってください。

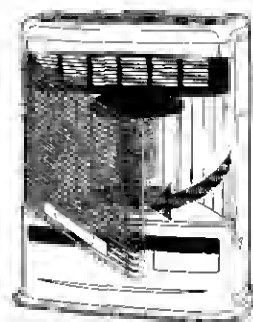


9. 組み立ての際、燃焼リングは、左図のように正しく確実に取り付けてください。

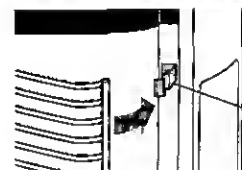
ポットバーナ・燃焼リングを損傷したまま使用しますと、燃焼が悪くなります。ドライバーなどでつついてみて穴があいたり、欠けた場合は新しいものと交換してください。ポットバーナの交換は、必ずお買い求めの販売店に依頼してください。

■反射板・ガラス円筒の掃除 (適時)

- ご注意** 掃除は、ストーブを消火させ充分冷却してから、おこなってください。熱い状態でおこなうとやけどのおそれがあります。
- 反射板およびガラス円筒にほこりがたまりまると、反射効率が悪くなるばかりでなく危険ですので、次の要領で適時掃除をしてほこりを取り除いてください。



1. 前面ガードを右側の固定ばね(2個)からはずし左側にまわしてください。
2. ガラス円筒を割らないように注意して、掃除機などで内部のほこりをきれいに掃除してください。
3. やわらかい布などで、反射板およびガラス円筒をきれいにふいてください。
4. 掃除が終わりましたら、もとどおりにセットしてください。



前面ガードのセット

■ガラス円筒内部の掃除 (適時)

- ご注意** 掃除は、ストーブを消火させ充分冷却してから、おこなってください。熱い状態でおこなうとやけどのおそれがあります。
- 長期間の使用や、油だまりによる大燃焼の後にはガラス円筒がすすけることがあります。ガラス円筒がすすけて炎が見えにくくなったときは、10ページ「ポットバーナの掃除」の項にしたがい、スケルトンをはずしてガラス円筒を掃除してください。

- ガラス円筒には、水をかけたり、衝撃を与えたりしないよう注意してください。
- 運転中にガラスが徐々にすすけた場合は、しばらくの間(30分間)火力を大きくすることにより、すすを除去することができます。

■フレームロッド(燃焼制御装置)の点検 (適時)

- フレームロッドの先端にすすが付着したり、フレームロッドが変形すると、誤作動の原因になります。すすの付着やフレームロッドの変形がある場合は、必ずお買い求めの販売店に点検・交換を依頼してください。

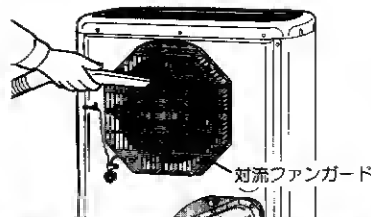
■点火ヒータ・点火ネット・ノズルの点検（シーズンの初め）

- 点火ヒータや点火ネットにすすが付着しますと、赤熱が低下したり、油のひろがりが悪くなり、着火不良の原因になります。
- ノズルの先端にすすが付着しますと、異常燃焼になったり、着火不良や消火時間が長くなる原因になります。



■対流ファンガードの掃除（1週間に1度）

- 対流ファンガードにほこりがたまると、音が大きくなって温風量が少なくなり、暖房出力が低下すると同時に、ストーブ内の温度が異常に高くなって、過熱防止装置または安全サーミスタが作動する場合があります。
- 1週間に1度は、次の手順にしたがって対流ファンガードの掃除をしてください。



1. 運転を停止し、対流ファンが止まっていることを確認してください。
2. 掃除機などでガードについたほこりを取り除いてください。

対流ファンガードには、布や掃除機を当てないでください。

■地震などの災害が発生したときの点検について

- 地震などの災害が発生し、ストーブに振動や衝撃が加わったときは、運転前に必ず次の点検をおこなってください。

- 給排気筒まわりのはずれ、もれの確認
- 灯油配管からのもれの確認

点検で異常が見つかった場合は、お買い求めの販売店に修理を依頼してください。

9 定期点検

長期間ご使用になりますと、ストーブの点検が必要です。

2シーズンに1回程度、シーズン終了後などに点検を実施してください。点検のご相談は、お買いあげ店または修理資格者（（財）日本石油燃焼機器保守協会（TEL03-3499-2928）でおこなう技術管理講習会修了者（石油機器技術管理士）など）のいる店までお問い合わせください。

10 故障・異常の見分け方と処置方法

■次のような現象は故障ではありません。

- 修理を依頼される前にもう一度お確かめください。

現象		説明
点火時・消火時	初めて使用するとき、煙やにおいがでる。	耐熱塗料やほこりが焼けるためです。 しばらく窓をあけて換気をしてください。
	すぐに点火しない。	予熱点火方式のため予熱時間が3分程度必要です。 （予熱時間は室温により多少変化します。）
	燃焼開始時や消火後に「ピチピチ」という音がする。	本体内部が熱により膨張、収縮するためです。
	点火時にボンと音がする。	点火するときに発生する着火音で、異常ではありません。
燃焼時・その他	青炎の中に黄色い炎（赤火）が混じる。	異常ではありません。
	給排気筒の先端から連続的に白煙が出る。	外気温が低くなると、排気ガス中に含まれている水分が凝結して水蒸気になるため、異常燃焼による白煙ではありません。
	灯油ぎれの際、一瞬炎が大きくなって消火する。	異常ではありません。

■使用中に異常がありましたら、次表により原因を調べて処置をしてください。

- 原因のわからないときや、処置のむずかしいときは、お買い求めの販売店、またはお近くのコロナお客様ご相談窓口にご連絡ください。 ※設定温度表示にモニターサインが表示されます。

原因	現象										処置方法
	E1 (通中消火)	E2 (点火しない)	E3 (対流動作)	E5 (排気管抜け検知動作)	CL (原機)	E0 (安全サーミスタ動作)	炎が大きい・少ない	黒煙を出して燃える	ガス・田舎がすすける	音がたてで燃える	燃焼的燃焼をする
電源プラグをコンセントに差しこんでいない											●コンセントに確実に差し込む
強い地震があった。 または、ストーブに衝撃を与えた		●									●P11(地震などの災害が発生したときの点検について)の点検項目を確認し、運転スイッチを押し直し再点火する
送油バルブが開まっている	●	●									●送油バルブを開く
ゴム製送油管に空気だまりがある	●	●				●					●ゴム製送油管を握る。山形になっている所は平に直す
定油面器に水、ごみの目づまり	●	●				●					●送油バルブをしめてストレーナをはずし、掃除する ●油タンクの水を抜く
給排気筒の設置が基準通りでない、排気管が長すぎる							●	●			●基準とおりに設置する
対流ファンガードのほこりがたまつた					●	●					●ファンガードのほこりを掃除機などで吸い取る
給排気筒工事不適当のため逆風現象がある	●						●	●	●	●	●給排気筒の取り付けを適正にする
燃焼リングの取り付けが悪い							●	●			●正しく取り付ける
給排気筒のつまり							●	●			●給排気筒を掃除する
油もれがある										●	●もれ力所を締め直す。(販売店に修理を依頼する)
給排気筒接続部がはずれている。すきまがある。				●						●	●給排気筒接続部のはずれを直す
排気管抜け検知用リード線端子接続のゆるみ											●ゆるみを直す
フレームロッドにすきが多量に付着した	●										●すきを取り除く。(販売店に修理を依頼する)
停電があった					●						●E-01を解除し、時刻などをセットして再度点火操作をする
給排気筒トップの先端がおおわれている	●						●	●			●おおっているものを取り除く

11 部品交換のしかた

■部品交換のときの注意

⚠注意 不完全な修理、調整は危険ですので、部品の交換、調整が必要な場合には、お買い求めの販売店または、修理資格者〔(財)日本石油燃焼機器保守協会でおこなう技術管理講習会修了者(石油機器技術管理士)など〕のいる販売店にご相談ください。

部品交換は **コロナ純正部品** とご指定ください。

部品ご入用の際には、**「コロナ製品取扱販売店」で必ずコロナ純正部品とご指定ください。**
純正部品以外の部品をご使用になりますと、性能が十分に発揮されないばかりか、**「ストーブ」を損傷したり思わぬ事故の原因になります。**

12 保管(長期間使用しない場合)

設置したままで保管する場合や、しまわれるときは、日常の点検・手入れの項を参照し、次の要領で保管してください。

1. 電源プラグをコンセントから抜いてください。

- ⚠注意 設置したままで保管する場合も必ず、電源プラグは抜いてください。

2. 油タンクの灯油はすべて出してください。

- 中に水分やごみを残したままにしておきますと、油タンクが腐食する原因になります。

3. 定油面器の中の灯油を抜いてください。

4. 対流ファンガードのほこりを掃除機などで取り除いてください。

5. 前パネルをはずして、掃除機などで内部のほこりを取り除いてください。

6. 塗装部分は、しめった布で汚れを落としてから、からぶきしてください。

- 補付たり、模造しの状態では絶対に保管しないでください。
- 「取扱説明書」「工事説明書」は、大切に保管してください。

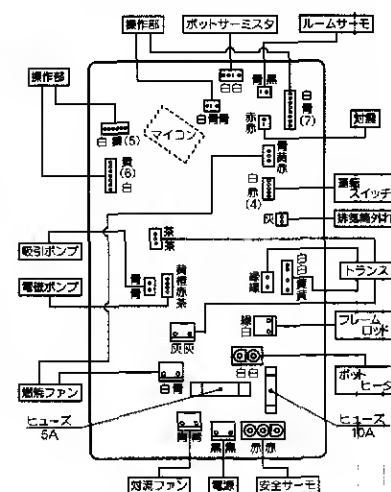
13 仕様

仕様

種 類	ポット式・屋内用・強制給排気形・強制対流形
点 火 方 式	電気点火式
使 用 燃 料	灯油 (JIS 1号灯油)
燃料消費量	最大 0.618L/h 最小 0.198L/h
発 熱 量	最大 22,890kJ/h 熱効率 86.0%
及び効 率	最小 7,330kJ/h 熱効率 83.8%
暖 房 効 力	最大 5.47kW 最小 1.71kW
熱 効 率	最大 86.0% (目盛大のとき) 最低 83.8% (目盛微少のとき)
暖 房 適 用	温暖地 木造 23.0㎡(14畳)まで コンクリート 31.5㎡(19畳)まで 寒冷地 木造 23.0㎡(14畳)まで コンクリート 38.0㎡(23畳)まで
外 形 寸 法	高さ 600mm 幅 508mm 奥行 356mm (置台を含む)
重 量	18.5kg
電 気 電 圧 及 び 周 波 数	100V 50/60Hz
定 額 電 力	点火時 340/340W・最大燃焼時 42/42W・最小燃焼時 24/25W 最大 600/600W (点火初期に短時間発生)
給排気筒の径の呼び	QU4-4
給排気筒の径の径	D40
給排気筒の設置高さの径	φ 75mm
排 気 温 度	260℃以下
電 流 ヒ ュ ー ス	5A・10A
安 全 装 置	対震自動消火装置・点火安全装置・燃焼制御装置・停電安全装置・過熱防止装置
そ の 他 の 装 置	再点火安全装置・過電流防止装置・排気管抜け検知装置・ 燃焼用送風機異常検出装置・安全サーミスタ
付 属 品	遮熱板 1個、給排気筒セット 1組、本体固定金具 2個、 ゴム製送油管締付バンド 2個、スリーブ 1個

※標準適室は、社団法人・日本ガス石油機器工業会の算定基準によります。

配線図



14 アフターサービス

■保証について

- このコロナ石油ストーブには保証書がついています。
保証書は、必ず「お買いあげ日・販売店名」などの記入をお確かめのうえ、販売店からお受け取りください。内容をよくお読みのと、大切に保管してください。
- 保証期間は、お買いあげいただいた日から1年間です。
- 次のような原因による故障および、事故につきましては、保証の対象になりませんので注意してください。(詳しくは保証書をお読みください。)
- 変質灯油や不純灯油など、また灯油以外の燃料使用による故障や事故
- 誤った使用方法による故障や事故

■修理を依頼されるときについて

- 「故障・異常の見分け方と処置方法」(11・12ページ)の項にしたがってお調べください。直らないときは、ご使用を中止し、必ず電源プラグを抜いてから、お買いあげの販売店にご連絡ください。
- ご連絡いただきたい内容は次の通りです。
①品名 ②型式の呼び ③お買いあげ日 ④故障の状況(出来るだけ具体的に)
- 修理に際しましては、保証書をご提示ください。保証書の規定にしたがって、販売店が修理させていただきます。
- 保証期間が過ぎているときは、修理すれば使用できる場合には、ご希望により有料で修理させていただきます。
- ご不明な点や修理に関するご相談は、お買いあげの販売店または、この取扱説明書の裏表紙に記載されている「お客様ご相談窓口」にお問い合わせください。
- 修理料金は、技術料・部品代・出張料などで構成されています。

■保証期間延長サービスについて

- 当社は、この製品の故障修理部品を製造する工場、7年保証しています。
- 保証期間延長サービスは、この製品の保証を延長するものではありません。

■保証期間延長サービスの対象製品

- 保証期間延長サービスの対象製品は、この取扱説明書の裏表紙に記載されている「保証期間延長サービス」の欄をご覧ください。

15 据え付け・移設

据え付け・移設工事は販売店に依頼する

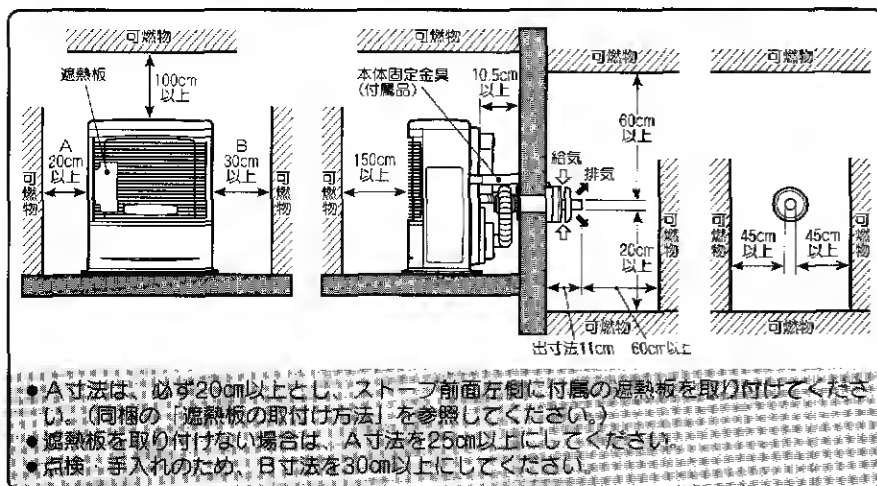
据え付けや移設工事は販売店または据え付け業者に依頼し、お客様ご自身ではおこなわないでください。

据え付け場所の選定及び標準据え付け例

据え付けについては、火災予防条例、電気設備に関する技術基準など法令の基準があります。工事説明書（工事編）の「特に注意していただきたいこと（安全のために必ずお守りください）」をお読みにになり、販売店又は据え付け業者とよくご相談してください。また、「標準据え付け例」については、下図を参照してください。

標準据え付け例

ストーブの据え付けは、下図を満足させる位置に取付けてください。



- A寸法は、必ず20cm以上とし、ストーブ前面左側に付属の遮熱板を取り付けてください。（同梱の「遮熱板の取付け方法」を参照してください。）
- 遮熱板を取り付けない場合は、A寸法を25cm以上にしてください。
- 点検：手入れのため、B寸法を30cm以上にしてください。

- 側方障害物は、両側にあってもよいが給排気筒と障害物、可燃物との距離は45cm以上とってください。
- 前方に塀や建物がある場合は給排気筒先端と前方障害物との距離は60cm以上離し、かつ上方および両側方に気流を阻止する障害物がないようにしてください。
- 給排気筒下面は地面から20cm以上離すようにしてください。なお積雪地域では、給排気筒先端が雪でふさがらない高さを確保してください。

- 木造の建物で壁にメタルラス張り、フイヤラス張り、または金属板張りをしてある場所に給排気筒を通すときは、それらの金属部に接しないように電気的絶縁をしてください。
- 壁に穴をあける場合、壁の内部にある電気配線、ガス水道の配管にあたらない場所を選んでください。

給排気筒を延長する場合の注意

給排気筒を延長する場合は、3m3曲がり以下で取付けられる場所を選定してください。

据え付け後の確認

据え付けが終わりましたら、もう一度、工事説明書（工事編）の「特に注意していただきたいこと（安全のために必ずお守りください）」をお読みにになり、工事説明書（工事編）に記載されているとおり据え付けられているかどうかを確認してください。

試運転

試運転は販売店または据え付け業者とごいっしょに必ずおこなってください。

■運転準備

- **注意** 電源プラグをコンセントに刃の根元まで確実に差しこんでください。（デジタル表示が **---** [L]）
- **チャイルドロック** ボタンを3秒以内に3回押してください。（デジタル表示が **---** [L]）
- 油タンクに給油し、送油経路の空気抜きをしてください。
- 送油経路やストーブより油もれがないか確認してください。
- 定油面器リセットボタンをセットしてください。
- タイマー運転になっていないことを確認してください。

■運転

油タンクの送油バルブを開いてください。

■消火の手順

運転 スイッチを押して「切」にしてください。（運転ランプ消灯）



● 運転 入切
● 正常運転しない場合は、11～12ページ「故障・異常の見分け方と処置方法」を参照してください。
● 長期間の保管後、再び設置する場合も「試運転」の手順にしてください。
● 試運転をおこなってください。

運転 スイッチを押して「入」にしてください。（運転ランプ点灯）

- **ご注意** 初めてお使いになるときは、耐熱塗料などが焼けて煙と臭いがでます。窓をあけて部屋の換気をしてください。

● 運転 入切



- 約5～6分間の予備燃焼が終わると本燃焼に切りかわります。
- 炎の状態は、青い炎の中にいくらかの黄色い炎（赤火）がまじっても異常ではありません。

火力調節つまみを「微少」～「大」に設定し、手動運転ができることを確認してください。

お客様ご相談窓口一覧表

修理サービスや製品についてのご相談は機種名をご確認の上、
お買いあげの販売店または下記のご相談窓口にご依頼ください。

ご転居やご贈答品などでお困りの場合は、下記のお近くの窓口にご相談ください。

名称、所在地、電話番号は、変更する場合がありますのでご了承ください。

●アフターサービスのお問い合わせは下記へどうぞ

コロナサービスセンター

フリーコール
0120-919-302
(修理受付専用ダイヤル)
FAX 0120-919-322

携帯電話・PHS等からは
最寄のサービスセンター
へ直接おかけください。

北海道・青森県・秋田県・岩手県のお客様は最寄のサービスセンターへ直接おかけください。

[illegible]

01067002

本社・工場
柏崎工場
長岡工場

三条市東新保7-7

柏崎市宝町2-58

長岡市下条町倉ノ浦1069

〒955-8510 TEL(0256)32-2111(大代表)

〒945-0817 TEL(0257)23-5175(代表)

〒940-1146 TEL(0258)22-2121(代表)

株式会社 **コボナ**